

磐梯山

磐梯山は、2 度の大噴火によって山容が大きく変わった、溶岩層と火山灰層でできた標高 1,816 メートルの成層火山です。

およそ 2500 年前、磐梯山は均整が取れた山容でしたが、火山活動によって山頂が山体崩壊し、沼ノ平のカルデラが形成されました。

1888 年に 2 度目の噴火が起きました。マグマや溶岩によって地下水や地表水が加熱されて生じた水蒸気爆発による壊滅的な噴火でした。溶岩の流出はありませんでしたが、強力な爆発によって磐梯山の 4 つの峰の一つ「小磐梯」（磐梯山北側の標高約 1,800m の峰）が山体崩壊し、大規模な岩なだれを引き起こしました。

岩なだれによって 11 の集落が埋没し、現在裏磐梯と呼ばれる磐梯山北側の地形はすっかり様変わりしました。岩なだれは村落を完全に破壊し、溪谷をせき止め、およそ 300 の湖沼が形成されました。現在ではその美しさが磐梯朝日国立公園の大きな魅力になっています。

この地の植生は大きな被害を受けましたが、短期間で再生しました。これは政府主導の大規模な植林事業の成果でもあります。溶岩の噴出は、生態系により長期的な被害をもたらすと思われていたからです。

磐梯山の頂上に登るには難易度の異なる 6 つの登山道があります。山頂から小磐梯の崩壊跡や湖沼の水面を見ることができます。これらの登山道は、7 世紀初頭から修験道の修行の場になっていました。修験道は山岳崇拜に基づく民間信仰の一つで、肉体的な苦行に耐える修行をします。5 月下旬～10 月の登山シーズンには、登山道に刻まれた修験者の足跡をたどることができます。

磐梯山は、固くなった溶岩層や、火山灰、軽石、岩屑などで構成されています。山体崩壊は、この種の火山の断面を目視できる珍しい機会を提供し、地質学上でも重要な場所になっています。現在の磐梯山は、大磐梯（1,816m）、櫛ヶ峰（1,636m）、赤埴山（1,430m）という 3 つの峰で構成されています。